

租税教育実践レポート

自分の生活と税について考える

登米市立豊里中学校教諭 3学年 遠藤 孝

実施年月日：令和3年1月29日 46名

1 実践計画・指導のねらい

本単元「政府の役割と国民の福祉」では、国民生活と福祉の向上を図るために国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせるとともに、経済についての見方や考え方の基礎を養うことを主なねらいとしている。指導に当たっては、現代社会の特色を踏まえつつ、生徒にとって身近な事例を取り上げ、自分の今の生活との関わりについて気付かせていきたい。また、将来の納税者として国や地域社会の在り方を主体的に考えるという自覚を育てていきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
事前指導	税の作文 消費税	○ <u>税について知っていることを話そう。</u> ● 警察や消防など、私たちの生活を支えている。 ○ <u>消費税はなぜ10%になったのでしょうか。</u> ● 少子高齢化が進んだからかだと思ふ。● 国の予算が厳しい状況だから。 □ 「もっと知りたい税のこと」(財務省)
	私たちの消費生活	○ <u>ワークシートで10年後の一人暮らしをシュミレートしよう。</u> ● 生活していくには、思っていた以上にお金がかかる。 ● もし、大きな怪我や病気をしたらどうしよう。 □ 「ワークシート」
1	地方財政の仕組みと課題 ・ 地方財政の仕組み ・ 地方公共団体の財政健全化	○ <u>都道府県間で地方交付税交付金の割合が違うのはなぜだろう。</u> ● 秋田や沖縄は3割を超えている。● 住んでいる人の数に関係があるのではないだろうか。 ○ <u>地方税を安定させるためには、どうしたらいいだろう。</u> ● その地方の特徴を生かした、独自の税を設定してもいいのではないだろうか。 □ 「私たちの宮城」「みやぎ環境税パンフレット」「ふるさと納税のサイト」
2	私たちの生活と財政 ・ 財政の仕組み ・ 様々な税金 ・ 税の公平性	○ <u>政府の財政について、内容を見てみよう。</u> ● 色々な税金がある。国債(借金)も多い。 ● 社会保障関係費など、人々の暮らしのために使われている。 ○ <u>国債を減らすために、次のことについて考えてみよう。</u> ・ 所得税や法人税などの直接税の割合を増やすべきである。 ・ 消費税などの間接税の割合を増やすべきである。 ● 法人税を増やすと、海外に移転する企業が増えるのではないだろうか。 ● 所得が少ない家庭にとっては、消費税の負担も大きいはずではないだろうか。 □ 「もっと知りたい税のこと」(財務省)
3	社会保障の仕組み ・ 社会保障の4つの柱 ・ 社会保障を支える人々	○ <u>みんなが病院に行ったときの、会計の場面を思い出してみよう。</u> ● お金を払っていないような気がする。 ○ <u>日本とアメリカの医療制度の違いを見てみよう。</u> ● アメリカだと医療保険に入っていないと、こんなにかかるのか。 □ 社会科資料集
4	少子高齢化と財政 ・ 社会保険の現在 ・ 福祉社会の実現に向けて	○ <u>これからの日本の税制度は、どうあるべきだろうか。</u> ● 高福祉高負担が良い。● 低福祉低負担でよい。 □ 「ご案内しますアナザーワールドへ」(DVD)

【指導のポイント】《事前指導》

「税の作文」を夏休みの課題としたため、財務省の資料を基に簡潔に事前指導を行った。

【指導のポイント】《事前指導》

将来の生活をワークシートでシュミレートさせ、消費支出と税に対するイメージを持たせるようにした。

【指導のポイント】《1時間目》

地方交付税交付金について理解を深めるとともに、「みやぎ環境税」や「ふるさと納税」などの取組と結び付けて考えさせることができた。

【指導のポイント】《2時間目》

累進課税、税の逆進性、軽減税率について説明を加えた。また、これまで学習した産業の空洞化にも結び付けることができ、産業の国際競争の視点にも気付かせることができた。



【指導のポイント】《3時間目》

皆保険制度について説明。更に登米市では、18歳まで医療費の助成を行っていることを説明した。

【指導のポイント】《4時間目》

DVDは内容も面白く、熱心に見る姿が見られた。治安の維持や災害復興に対しても、税は必要だという感想もあった。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 生徒たちにとって、身近な税に関する教材を提示するよう心掛けた。税務署からいただいた資料は、よくまとまっており活用しやすかった。
- ◎ 将来の生活をワークシートでシュミレートさせたことは効果的であった。消費者としての視点も持ったことで、あまりなじみのない税と自分たちの生活との関わりを意識させることができた。学習前よりも税に対する興味・関心が高まり、社会や地域のことについても考えることができた。
- ◎ 生徒たちの感想としては、医療や教育が充実しているのであれば高負担でも構わないという、北欧型の税制度を支持する考えが多かった。
- ◆ 税の作文の課題提示は、税についての理解や疑問が深まる後半の方が効果的かもしれない。また、今年度は様々な制約があったため外部講師を依頼できなかったが、オンラインの活用など新しい形態も考えていく必要があると思われる。